

# もっと知りたい

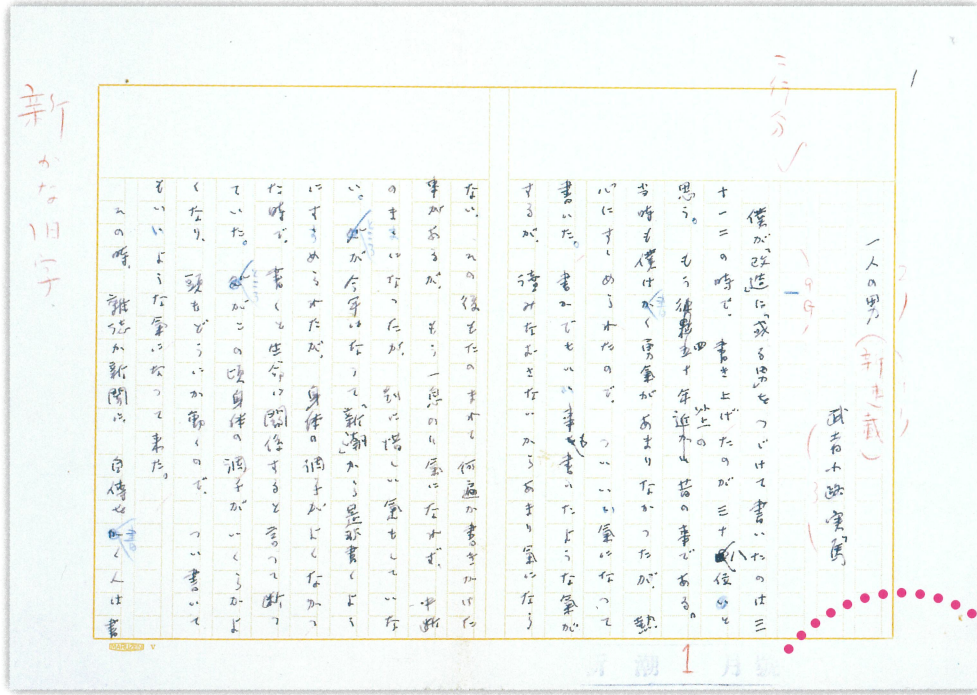
## 武者小路実篤

# げん こう と 原稿を読み解く へん しゅう 【編集の仕事】



これが<sup>げんこう</sup>原稿かあ。  
作文みたいだね。

黒い文字は僕がペンで書いたのだよ。  
35歳頃<sup>さいごう</sup>から80歳頃<sup>さいごう</sup>までの思い出を書いたんだ。



武者小路実篤「一人の男」原稿 昭和42(1967)年発表

<sup>げんこう</sup>原稿の  
スタンプにある  
しんちょう  
『新潮1月号』に  
載りました！

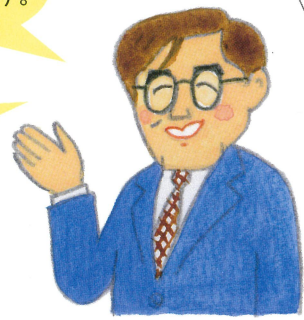


『新潮』第64巻第1号  
新潮社 昭和42(1967)年

赤い文字はなあに？

僕は雑誌の<sup>へんしゅうしゃ</sup>編集者です。

青鉛筆で文字を直して、  
赤鉛筆で雑誌に載せる時の  
指示を書きました！

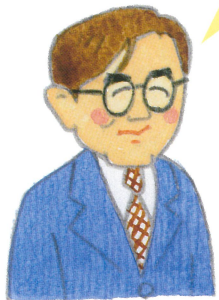


後に単行本にも  
なつたのですよ。

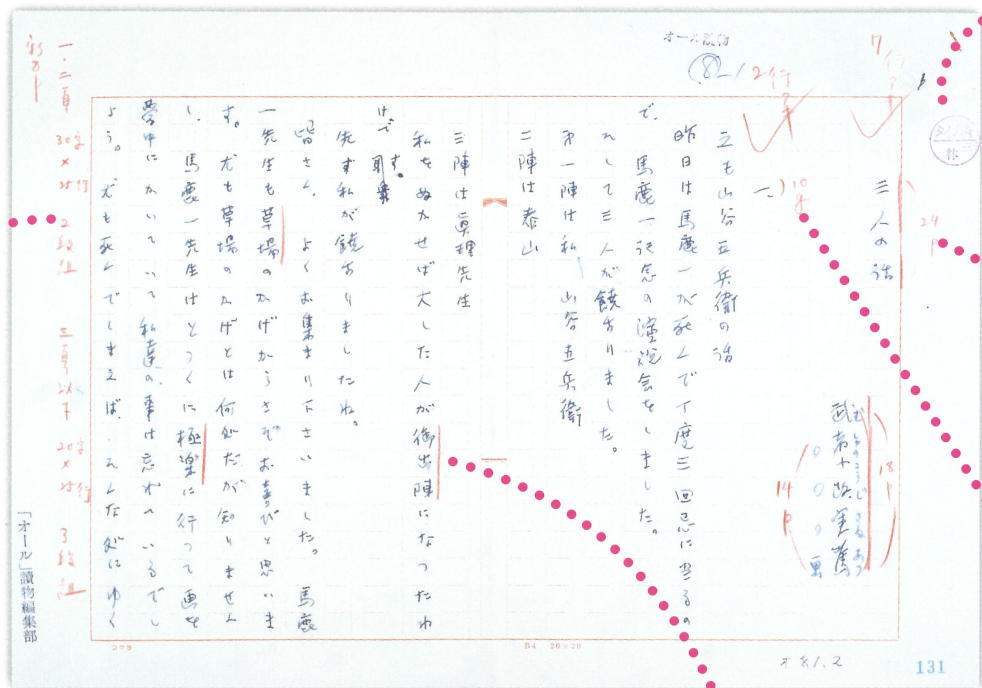


武者小路実篤『一人の男』上・下巻  
新潮社 昭和46(1971)年

武者小路先生に原稿を書いて  
もらったら、僕らが本や雑誌に  
の載せられるように編集します。



活字にしたことを表すスタンプです。  
活字とは、皆さんが本や教科書で見る印刷された文字のことです。  
当時はパソコンがなかったので、写真植字という技術で  
手書きの原稿を活字にしていたんですよ。  
この時は林さんと三浦さんが担当だったようですね。



「P」はポイントのことで、文字  
の大きさを表します。数が大き  
いほど、文字は大きくなります。

「G」はゴシック体という  
文字の種類です。

—  
ゴシック体  
—  
みんなのたい  
明朝体

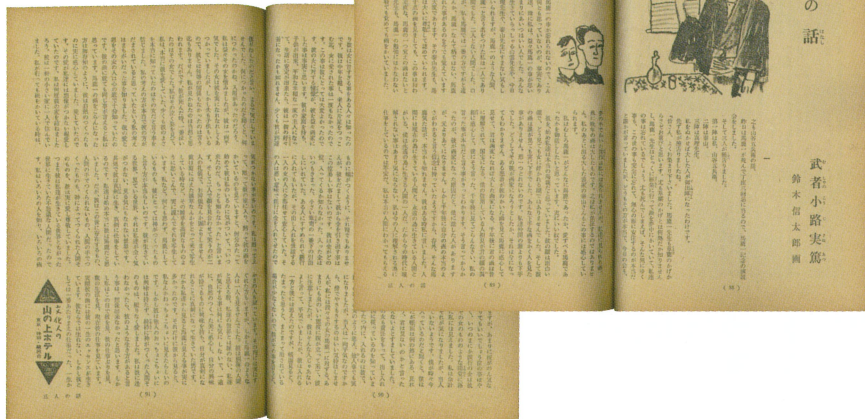
一・二頁  
三頁以下

20字 × 25行  
30字 × 25行

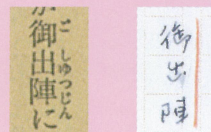
3段組  
2段組

武者小路実篤「三人の話」原稿 昭和41(1966)年発表

これは雑誌に載る時の  
文字と行、段の数ですね。



文字の横に赤鉛筆で線  
を引いたところには、  
ふりがなを振りました。



たくさんの方が関わって  
原稿は本や雑誌になるんだ!